

佛國畫師 氏スラーロ

小傳、逸事、(一) 中村不折氏談

本稿は氏が日本新聞の爲に口述されしものにして、ローラン

予が巴理に着いて後、予の念頭を離れなかつたこ

は思はれぬのである。そこで予は意を決して遂に

るともあるが、そんなとは先生疾くに御承知なの

だものは技術に拙く、色がうまければ、輪廓が不